愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター
地域に根ざし、世界に開く

コラボ通信

第8号
2007年4月1日

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。

愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター（以下ＣＣＣ）は、昨年 9 月 1 日に開設された新しい教育機関です。中部地域初の試みとなるＣＣＣでは、学生のみなさんに「地域に根ざし、世界に開く」という本学の理念を実践する教育プログラムを提供します。

ＣＣＣではどんなことが学べるの？

インターンシップ
企業、NPO・NGO 自治体等と連携し、「実社会」を学びます。
【CCC 開設科目】
「インターンシップ概論」
「インターンシップ研修」

地域との連携･協働
社会参加・貢献活動を通して、学生が大学で学んだ知識を地域に活かせるよう支援します。
【CCC 開設科目】
「コミュニティ・サービスラーニング」
「地域活動総合演習Ⅰ・Ⅱ」

ボランティア
学生の自主的な活動と地域の方との連携を支援します。
・ボランティア活動情報収集
・ボランティア活動のコーディネート
・ボランティア活動に関する相談

CCC ホームページを開設しました！
詳しくは、大学 HP をご覧下さい！

インターンシップとは？

学生が在学中に企業などで自らの専攻や将来のキャリアに関した就業体験を行う教育プログラムです。インターンシップに参加することで多くの気付きを得ることとなり、その後の将来設計の参考になることでしょう。

◎(独)国際協力機構(JICA)中部のインターンシップに参加しました！ /文化創造研究科新1年 近藤久恵さん

私はJICA中部で 3 週間、インターンシップを行い、高校生を対象とした「国際理解教育合宿セミナー」の企画に携わりました。3週間という期間は、自分自身の今後、向上していきたい点や反省点等が見えてきたのと同時に、他のメンバー、職員の方々との出会いに本当に恵まれた日々でした。

どんなボランティア活動があるの？

ＣＣＣでは、地域で活躍する多種多様なボランティア活動を紹介しています。「やってみたい！」「楽しそう！」と思う活動があれば、是非参加してください。

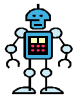
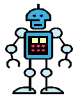
◎特別支援学級児童の学習支援活動に参加しています！ /コミュニケーション研究科2年 河合裕子さん

犬山北小学校は特別支援教育に力を入れていて、地域の人材を活用して、開かれた学校づくりを目指しています。「すこやか委員会」という組織が、教師や支援者･専門機関と保護者･本人との連携をとりながら、子どもにとって能力を最大限発揮できる学習の場、安定できる生活の場づくりを目標に活動しています。その中に「すくすく隊」があります。すくすく隊には、すでに中京大学や愛知教育大学の学生ボランティアが活躍しており、校長先生をはじめ教師の皆さんが快く受け入れてくださっています。

私は、修士論文で通常の学級に在籍する発達障害児への援助に焦点を当てたことからも、研究の成果が特別支援教育の現場で実際にどう生かされるべきかを考えていきたく、このボランティアに参加することにしました。交流する子ども達が少しでも楽しく授業を受けられるようにサポートをしています。

この活動を通じて、教育現場で困難を示す子ども達と、対応している先生との双方の悩みを具体的に知ることができ、将来臨床心理士として仕事をする時に、きっと役立つ時が来るように思います。

＊「すくすく隊」の詳しい活動は犬山北小HPをご覧ください http://www.inuyama-aic.ed.jp/kenboku.h.p/index.htm

ボランティア活動紹介

◎「ロボットミュージアムでのワークショップ」に参加しました！

文化創造学部 新４年　仲野裕里恵さん

ワークショップでは子ども達と楽しく工作を行い、有意義な時間が過ごせました。時間があったことから、ロボット体験コーナーでも子ども達がロボットを操作させて遊ぶサポートを行いました。

◎千種児童館「オセロゲーム大会ボランティア」に参加しました！

文化創造学部 新２年 浅井麻衣さん

オセロ大会の審判をやりましたが、自分もやりたくなってしまう程楽しめました。「児童館で様々な行事を行うので、その時は、是非お手伝いに来て下さい。」と言われた時は嬉しかったです。

（他参加者：文化創造学部 新２年 古澤綾雅さん）

児童館での様子 写真右：浅井さん

◎地域で開催された「もちつき大会ボランティア」に参加しました！

卒業生　水谷仁さん（２００７年３月卒業、参加時は本学４年）

もちつきというより、大会参加の子ども達との交流がほとんどでした。もともと子どもが好きなので、たくさんの子ども達と接することが出来て、すごく楽しかったです。ただ、子どもがやってはいけないことをやってしまった時にしっかり注意することができなかったことが残念です。

（他参加者：０７年３月卒業生、鬼頭智子さん、新４年小倉知佳さん、伊藤大悟さん）

◎地域にある保育園の「お散歩引率ボランティア」に参加しました！

文化創造学部 新２年 下村枝里さん

3，4，5歳児の引率でしたが、みんなすごく可愛くて癒されました。公園では、園児が遠くまで行かないように見守りをしたり、遊んだりしました。色々な年代のボランティアの方がみえたので、ボランティア同士の交流も楽しかったです。

CCCスタッフよりコメント＆アドバイス
子どもに関わるボランティアはとても人気があります。こうしたボランティアに参加する時は・・・子どもは、私たちが予測しないような行動をする場合があります。一緒に遊びながらも、危険なものや場所はないかなど、常に気配りを忘れずにしましょう。

◎障害者共同作業所での「クリスマス会企画･運営ボランティア」に参加しました！

医療福祉学部 新２年　山田真由美さん

クリスマス会の司会、進行とゲームを考え、利用者さんと一緒に遊びました。風船リレーやじゃんけんゲームなどを行いました。大変でしたが、すごく楽しかったです。司会として何とか数時間乗り切りました。色々な障害の方と触れ合うことができ、とても良い１日になりました。

医療福祉学部 新２年　岡田幸奈さん

とても楽しく参加できました。ゲームやカラオケなど利用者の方は楽しそうに、盛り上がって参加して下さったので助かりました。お昼は、保護者の方々が作ってきてくださった食事を頂きました。嬉しかったです。

（他参加者：医療福祉学部新２年浅野順子さん、大竹里奈さん、田中勇さん、文化創造学部新２年丸山涼子さん）

CCCスタッフよりコメント＆アドバイス
障害者共同作業所のクリスマス会企画･運営ボランティアに、多学部の学生さんが１つのグループになって参加してもらいました。学生さん同士のいい交流にもなったようです。参加した学生さんから報告を聞いてとても嬉しく思いました。「ボランティアに参加して良かった！」と思ったら、今後も是非続けて活動して下さいね。

学内の学生活動紹介！

文化創造学部 新４年 伊藤満美さん

（ボランティアの仲間です！写真左:伊藤さん）

私は、様々な国の人と交流したいという思いから「NIC（名古屋国際センター）日本語の会」のボランティアを始めてもう２年になります。初めは、彼らとどのように接すればいいのか、日本語を教える難しさなどに悩みましたが、彼らと同じ目線に立って、つまり、教える立場を意識せず、ひとりの人間として接し、自分の持てる力を十分に発揮しようとすれば、相手にも通じるということを学びました。彼らと接している時はいつでも、自然に笑顔でいる自分が大好きです！

これからも、もちろんこの日本語ボランティアは続けます。さらに、技術や知識を高めるために、春から日本語教室の養成講座にも通うことに決めました。

コミュニケーション心理学科の実践を紹介します！

コミュニケーション心理学科

「学びの支援フォーラム」イベントにブース出展しました！

2006 年 8 月 19～20 日の２日間、東京国際フォーラムにて「学びの支援フォーラム」が開催されました。このフォーラムは子ども達に学ぶことの楽しさを体験してもらう「学びフェア」で、全国にある大学 24 校、企業 1 社が参加しました。参加した大学は、子どもを対象に学びの楽しさを実体験できるオリジナルブースを設置しました。

愛知淑徳大学コミュニケーション心理学科では、「子ども達が人間の心の不思議に気づき、人間関係について考えてもらうきっかけにしたい」という思いで、子ども達の興味をくすぐる“刺激”を与え、驚きや疑問を感じてもらえるブースづくりを展開。

題材に「錯視」（目の錯覚）を取上げ、錯視現象を体験してもらい、ゲーム感覚で遊びながら目の不思議に触れることができるようパネルを設置。錯視現象はモノを見る時だけに限らず、学校で友達など人間を見る時にも無意識のうちに起きているということを伝えました。

「友達のことを、その子の服装とか一部分だけで判断してしまっていたかも・・」と家族で語り合う姿が見られ、学生達の思いが多くの人に伝わったようです。

学生にとっても、たくさんの人とふれあい、語らうことで、人間理解を深め、コミュニケーション能力を高める貴重な機会となったようです。

大人気！
体験型ブース

鈴木陽子さん
2007 年 3 月卒業

この経験は、ある意味で、コミュニケーション心理学科で学んだことの集大成。人とどのようにコミュニケーションし、その人によっていかに自分を変えていくか、短期間でみっちりと実践できたことは、すごく勉強になりました。この学科で脳のメカニズムやさまざまな障害について学んだことで、今は一側面で人を判断するのではなく、いろいろな側面から人を理解しようとするようになりました。この「気づき」は、自分が生きていく上でとても大きな財産になると思いますし、社会に出てからも必ず活かしていきたいです。

コミ心理学科の詳細は学科ＨＰをご覧ください。http://www2.aasa.ac.jp/faculty/psych/index.htm

CCC 開設記念講演会･交流会開催 06 年 12 月 15 日(金)

昨年 12 月 15 日、星ヶ丘キャンパスにて開催しました。

[講演会]

講師にトヨタ自動車株式会社 常務役員中井昌幸氏（社会貢献推進本部他担当）をお招きし、「トヨタの社会貢献活動」について、国内外のさまざまな分野で行われている活動の状況をお話いただきました。中井氏の学生への講演は初めての事です。参加者は、地域･民間団体･企業 131 名、本学学生･教職員 159 名で、会場はいっぱいでした。講演終了後は、学生からの質問も相次ぎ、社会の現状に対する意識の高さがうかがえました。

[交流会]

交流会は、本学の学生がインターンシップ、ボランティア、地域活動などでお世話になっている企業や団体をお招きしました。会場では、各活動に参加した学生によるポスターセッションを開催。参加者との意見交換が熱心に繰り広げられました。

講師：中井昌幸氏

ポスターセッションに参加した
新 4 年吉田明日香さん：写真左

☆この交流会では、学生が受付、来客の誘導、会場整理などボランティアスタッフとしてお手伝いしてくれました。参加の声をお届けします・・・

文学部　新 3 年　桑山 紳さん

当日の朝は「何をすればいいのだろう？」と少々不安でしたが、来客への誘導をスムーズに行うことが出来ました。講演も興味の持てる内容で、企業や大学が地域と繋がっていくための参考になると思いました。

CCC も始動し活動も盛んになっていくので、積極的に参加していきたいと思います。

CCC 主催にて「サービスラーニング入門講座」を開催しました！

07 年 1 月 13～14 日の 2 日間、星が丘キャンパスにて「サービスラーニング入門講座」を開催しました。講師として、社団法人日本青年奉仕協会調査研究主幹村上徹也先生をお招きしました。

1 日目はサービスラーニングの歴史、効果、米国の事例の解説について、2 日目はワークショップ形式にてサービスラーニングの企画法、運営法について学びました。参加者からさまざまな意見交換がなされ、教室の温度が高くなったかと思われるほど充実した 2 日間の講座でした。

「サービスラーニング」とは、学習活動と社会貢献活動を意図的に計画的に結びつけ相乗効果を生む教育プログラムです。

◎サービスラーニング入門講座に参加しました！　文化創造学部 新 4 年 谷口晃将さん

講習の中で、学校教育においてサービスラーニングがいかに大切かを学びました。講習中にサービスラーニングが活発に行われているアメリカのビデオを観たとき、授業にサービスラーニングを取り入れることによって、生徒の学習態度が大きく変化することを知りました。学習することの意義や目的、楽しさを知った生徒は、自主的に授業へ参加するようになり、充実した学校生活を送るようになります。また、学校が抱えている問題解決の鍵にもなるそうです。

今後、サービスラーニングは日本の教育改革の一つにもなりえるようなすばらしい教育法だと感じました。

ＣＣＣ利用時間：9 時～17 時　　E-mail：asccc@asu.aasa.ac.jp

[長久手キャンパス] 4/9 より、**10 号棟 6 階**に移動します！

[星が丘キャンパス] 1 号館 1 階

[編集後記]入学・進級おめでとうございます。新年度のスタートに、新しい自分との発見をＣＣＣと一緒にしませんか？　両キャンパスにＣＣＣはありますので、気軽にお越しください。お待ちしています！